

アーチェリー部活動・練習場再開における感染防止策の心得について

当該学校の部活動方針や練習施設の管理責任者に従うことが大前提となります。事前に相談をして練習を行いましょ。

感染リスクへの対応が整わない場合は練習中止するなど慎重な対応をお願いします。

感染防止のために管理者が決めた、利用規定や措置等を遵守し指示に従いましょ。

練習するにあたり

- ・感染防止のために管理者が決めたお願いや指示に従う。
- ・練習場への移動はマスクを着用する。
- ・日頃の体調管理とチェックを徹底する。

練習場に出かけるとき、必ず検温して平熱の確認や発熱やせき、のどの痛みなど風邪の症状がないか確認して、だるさや息苦しさ、そして臭いや味がいつもと同じかのチェックを行い、異常があるときは、監督やコーチ・所属先の責任者に相談する。

- ・3密の環境を避けること、こまめに（特に帰宅時はすぐに）手をきれいにすること。
- ・最初は、焦らず、無理をせず、少しずつ自分のペースで練習を行うこと。

◎これから暑い夏を向かえます。新型コロナウイルス感染症対策とあわせて、熱中症予防対策にも注意が必要です。 https://www.wbgt.env.go.jp/doc_prevention.php

会場内での対応について

- ・会場内にアルコール消毒を設置し、練習の合間に手洗い等による除菌を行い、感染予防に努めること。
- ・マスクを各自準備し、着替え時等の練習を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する。
- ・ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）を守る。
- ・他の練習仲間との距離（できるだけ1m以上）を確保して行射する。
ただし、障害者の誘導や介助を行う場合を除く。
例として：6mピッチに2名から6名、1標的1名から2名。
- ・控え場所での間隔は1m以上空間を確保する。
- ・近射に関しては、1標的1名でおこなう
- ・練習中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- ・他人の弓具(スコープ含む)を触らない、共有で使用する初心者用の弓具等はその都度消毒をして持ち回りをする。
- ・採点中も、選手同士が適切な距離を確保するように意識し、安全な距離を確保するように努め、お互いに適宜注意喚起をおこなうこと。
- ・練習中のスコアカードの記入は各自で行い、スコアカードを挟むバインダーは共有せず、1人1人ずつ準備をする。
- ・指導については、ほぼ口頭での指示指導者で接触を極力避けるようにする。
- ・指導者が矢の判定や技術的な面で呼ばれたときは、選手の距離を1m以上確保し密を避

け、安全な距離を確保する。

- ・選手と接触したらその都度手洗又は消毒を徹底する。
- ・指導者はマスクを着用し、可能であればフェイスシールドも併せて利用すること。
- ・用具の点検や調整を行うときはゴム手袋（使い捨て）を使用する。
無理な時は自身手の手洗い・消毒を先に行うか、触った個所の消毒をして返すこと。
- ・握手やハイタッチ・グータッチなどの行為は行わない。
- ・スポーツウェアやタオルの共用はしないこと。
- ・飲料は自分専用のもを飲み、回し飲みはしない。
- ・クーラーボックスの共有使用は行わない。
- ・共有物を使用した際には消毒する。
- ・室内練習場では窓を開けて行う。
常にオープンが難しい時は、部屋全体の空気を1時間に2回入れ替え換気を行う。
- ・部室内や器具倉庫で人が触れる箇所（共用箇所）の消毒を定期的に行う。
- ・共有のロッカールームの利用は控える。
- ・管理者は巡視をし、三つの密（密閉、密集、密接）監視を行うこと。

以上感染防止策については、必要に応じて見直しを行います。

安全管理について

アーチェリー競技の普及と発展を願い、本連盟で定めている「安全規程—アーチャーの安全マナー」を厳守し、すべての会員（選手・役員）・愛好者は危険防止に関して相互に連帯をとり、日常から事故防止と安全に関する習慣を定着させて、競技スポーツとしてのアーチェリーを通じて私たちは、相手を誠実に思いやり、尊敬し、真剣に競技して、よきアスリート・心豊かな人間になることを目指しましょう。

※ 公益財団法人日本スポーツ協会のホームページに公開されている

「スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について」も確認してください。

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4164>

公益社団法人全日本アーチェリー連盟